

平川市「食・農・観の活性化拠点」整備の方向性について

令和7年度に実施したサウンディング調査の結果等を踏まえ、施設整備に向けた課題と方向性（今後の検討方針）を整理しました。

項目	課題	今後の検討方針
コンセプトを実現するための施設・機能	核となる機能が不明瞭／専門性の高い機能における運営イメージが不明瞭／流動的な人員配置や収支バランスの調整が求められる	公益性や持続可能性、採算性等の観点から、必須機能と中核機能を選定／「食・農」を中心として、「観」とバランスを踏まえ、費用負担の考え方を精査
施設規模	集客と収益性の両立が難しい／ねぶた展示館や屋内あそび場は、公費負担を前提とせざるを得ない	「食」に関する機能は、独立採算での運営を行う施設として規模を設定する／公費負担部分も考慮しながら必要規模を設定する
施設計画	導入機能や規模、運営計画によって、建物の分棟・一体化や各機能の連携の仕方が異なる	適切な配棟計画を検討／事業スキームによっては、段階的な整備の検討も考えられる
用地取得	都市計画による規制やインフラ整備状況、交通量、施設規模、施設配置、ねぶた運行ルートも踏まえ、適切な用地の選定が必要	県道13号沿いにおいて、必要な敷地面積を確保できる候補地を選定
事業スキーム	採算区分や官民の役割分担が不明確なため、民間事業者が参画判断しにくい／独自性の高い機能を導入する場合、運営を行える事業者が限られる	民間対話による運営手法等の検討に加え、官・民の費用負担を明確化／専門性を考慮し、一体の事業とするか事業範囲を切り分けるかを検討
冬季利用	雪資源の活用や継続的なイベント運営、地域利用と観光利用を両立させる具体像が整理しきれていない	主要ターゲットと来訪動機を整理し、屋内あそび場等と屋外雪体験等の使い方のイメージ、運営体制等と動線・除雪計画を一体で検討

【方向性まとめ】

強みである「農」を基盤に、「食」と「観」を結び付け、持続可能で実効性の高い拠点とするため、機能の精査と重みづけを行い、キーとなる中核機能を明確化したうえで、事業実現性や採算性を踏まえ、スモールスタートも念頭に、適正な規模での事業化を目指す。特に、「食・農」を中心に据えつつ、「観」とのバランスを図り、機能毎の運営の専門性を踏まえ事業範囲を検討するとともに、機能毎の収益性を考慮し官民の費用負担を整理する。あわせて、ヒアリング等を通じて、民間事業者の参画意向や参入条件を確認する等、事業スキームの検討も進め、実現性の高い整備内容へと具体化を図る。また、道の駅とすることのメリット・デメリットを比較検討し、道の駅登録の可否を検討する。

なお、市中心部におけるまちづくり方針である「平賀駅周辺まちづくり基本構想」においても、同様の機能の必要性が検討されていることから、整合を図る必要がある。